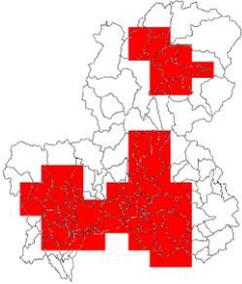


イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim.	準絶滅危惧
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		マメ科
選定理由	もともと生育地も個体数も少ないうえに、生育環境が悪化している。	写真(柳沢直) 
形態の特徴	茎は直立し、高さ60-150cm。枝や花序、葉に開出する褐色軟毛を密生する。葉は3出複葉。小葉は長楕円形。花は帯黄白色。葉腋から葉より長い総状花序を出し多数の花をつける。萼裂片の先は針形に尖る。豆果は卵形。	
生態的特徴	マメ科の半低木。花期は7-9月。日当たりのよい草地や川原に生える。白い花が美しく目立つが、葉腋に閉鎖花も多数つけ結実する。用水路わきのように、定期的に草刈りが行われるようなところは生育適地になっている。	
分布状況	本州から沖縄に分布し、中国大陸からヒマラヤ、インドに分布する。岐阜県では、県南部に稀に見られ、県北部にもごく稀に見られる。	
減少要因	農業従事者の減少によって、耕作地やその周辺の草地環境が減少していることが減少の要因。また、ダムや堰の建設によって生育に適した環境が失われている。	
保全対策	草地環境の保全。農地の周辺や用水路わき、溜池の堤防などの草地を維持するために、適度な草刈りが必要。	
特記事項		
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅱ 保育社 1961 日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類 平凡社 1982 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県 2005	

文責:福岡義洋